

「エネルギー産業研究会」2019 年度活動報告 (リーダー森本五百樹)

エネルギー産業研究会は、エネルギーに関する日本の国家戦略をベースにして

- 1) エネルギー産業に関する動向調査とそのフィードバック(支援)
- 2) 再生可能エネルギー分野におけるビジネス機会の調査
- 3) 水素社会構築にかかわる産官学との連携

を主要活動課題としています。

2019 年度の主な活動実績は以下の通りです。

1) エネルギー産業に関する動向調査と支援

- ・現在、環境・エネルギー産業分野における最大の課題は、SDGs と EV シフトに関するものです。かかる視点から、2次電池、すなわちリチウムイオン電池の性能向上、構成材料の開発、次世代2次電池について、調査活動を行う、いくつかの報告書に取りまとめました。
- ・またこの分野は、部材開発、その加工技術開発および評価試験装置などに関して中小企業が参入できる分野です。展示会への招致を実施しました。
- ・次世代2次電池の一つ(新型マグネシウム電池)に関する技術支援の要請もありましたが、断念いたしました。

2) 再生可能エネルギー分野におけるビジネス機会の調査、支援活動

- ・再生可能エネルギーは、今後の日本のエネルギーの柱となることが期待されています。今年度も商談会などを通してビジネスマッチングを実施しました。
- ・風力部品メーカー、バイオマス発電システムメーカー、温泉熱利用システムメーカーなどの企業様を大手企業に紹介しました。

3) 水素社会構築にかかわる産官学との連携

- ・日本政府は、2030 年～2050 年を目標に水素社会の構築をめざし、産官学の連携を推進しています。研究会でも産官学各組織とのコネクションを強めています。
- ・地方自治体、官庁機関との交流では、今年度も神奈川県、横浜市、福島県、いわき市などの関係機関と情報交換、セミナー参加、支援活動を行いました。この中で昨年まで続いた四国経産局関連事業が終了したのは残念でもありました。
- ・水素社会の構築で最大の課題の一つは、そのサプライチェーンの構築です。キャリア技術の開発に携わっているいくつかの企業様との連携を継続しています。
- ・横浜水素エネルギー協議会との連携など。

4) これらの活動を通じて次のような報告書を取りまとめました。詳細ご希望の方は、NPO メルマガ担当までご連絡ください。

- ① リチウムイオン電池の高性能化の現状
- ② 第5次エネルギー基本計画
- ③ 神奈川県京浜臨海部の水素サプライチェーン実証事業
- ④ キリンビール横浜工場「スマート水素ステーション」
- ⑤ FC フォークの利用状況
- ⑥ 電気自動車の現状
- ⑦ マイルドハイブリッドの台頭
- ⑧ リチウムイオン電池の製造工程
- ⑨ 水素活用モデルの構築
- ⑩ 日産リーフのリチウムイオン電池
- ⑪ 水素エネルギー利活用に関する 最新動向